

新晃工業

超高出力UV-Cで細菌・ウイルス除去

クリーンな空気を室内に供給

「健康空調」を投入

空調機器の総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社・大阪市北区）が先ごろ本格的な受注活動に乗り出した。「健康空調」は、強力な紫外線（UV-C）照射で浮遊細菌、ウイルスを分解・除去し、クリーンな空気を室内に再供給する

というもので、同社としてはこれまで「ユーザー様からの指定に基づき、ラインにUV-Cを組み込み、納入した事例はあり」（営業開発部長・稲川健氏）ものの、UV-Cを標準搭載した機種の市場投入は今回が初めて。同社では受注想定価格や当

初受注目標は明らかにしていないが、室内空気環境の向上に関心が高まる中、「健康空調」の今後の動向が注目されそうだ。先に触れた通り、同社では、UV-Cを組み込んだ製品開発についてはすでに経験値を持つっており、さらにUV-C照射に

よる浮遊細菌、ウイルスの除去性能や安全対策など幅広い角度からの「シミュレーション、データの収集・分析といった様々な技術検証を実施し、その結果を設計に落とし込み、スペックをまとめていく作業を慎重に進めていった」（生産本部技術統括部第四部・竹口徹副部長）とし、このほどリリースするに至った。

◇ 一般に総合病院などでは、院内感染を防ぐ目的で各種の安全対策が実施される。しかし、その一方で、外来患者や見舞客など不特定多数が出入りする待合室、エントランスでは、外部から持ち込まれる細菌やウイルスが空気中に浮遊しているのが実情だ。

今回の「健康空調」は、待合室やエントランスからの還気を空調機内に取り込み、超高出力の紫外線ランプを照射することで浮遊細菌やウイルスを瞬間に分解・除去し、ク

リンな空気を再び室内に供給する仕組み。同空調機のモデル装置を使った浮遊乳酸菌の除去性能試験（試験場所・工学院大学八王子キャンパス実大実験室、試験機関・バイオメディアカルサイエンス研究会習志野ラボ）に基づき試算によると、紫外線ランプを用いた浮遊細菌類のシングルパス除去率（健康空調機を1回通過した際の浮遊菌類の減少割合）は、ウイルス87%、黄色ブドウ

球菌27%、緑膿菌25%、セブチア菌78%、結核菌14%となった。

現状では、緊急事態宣言を踏まえ、プロモーション活動や提案営業などで十分な動きが取り難い状況だが、すでに設計事務所からの問い合わせも入っており、「今後は病院、介護施設のほか、一般オフィス、ショッピングモールなどに関連する設備設計事務所様などへの訴求を展開したい」（稲川部長）と話している。